

魅力発信！えひめ農業NOW

令和元年8月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業振興＞愛媛県農業技術情報サービス
※2 この動向は、8月中に各普及地区から報告のあったものを取りまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

「魅力発信！えひめ農業NOW」（8月分）

四国中央農業指導班

■「よもぎ」の生産拡大に向けて

- 農業指導班は8月8日、「よもぎ」の実需者である奈良県「井上天極堂」を訪問し、今後の生産販売について検討した。
- 「よもぎ」は、JA うまが地域営農活性化のため四国中央市川滝地域で平成30年に導入し、今年初夏から収穫が開始されたもの。
- 産地の平均的な収量は1t/10a程度であるが、川滝地区では収穫開始が遅れ、5～6月に2回/株程度(目標3回/株)で終了したため、4分の1程度にとどまった。
- 天極堂からは、「よもぎ」の品質は良好で、定期的に購入される個人客もあることから増産を要望され、買取価格はJA うまの希望価格で検討していくこととなった。
- 今後も、JA うまと連携を図り、栽培管理の支援と販売実績を重ねて、栽培面積の拡大と地域の活性化を推進する。



川滝地区のよもぎ園地

東予地方局産地戦略推進室

■イオンの社員が「絹かわなす」の収穫作業で汗を流す

- 産地戦略推進室は8月28日、JA 西条と連携して「絹かわなす」の需要拡大のため、イオンリテール株式会社の社員ら19人に、生産現場や栽培の現状を紹介した。
- これは、主要な取引先の一つであるイオンリテールの販売に関わる社員に、「絹かわなす」についてより一層理解を深めてもらい、店舗での取り扱いや販売促進に繋げてもらう取組みである。
- 参加者らは、JA 西条の農業実習ハウスにて収穫体験を行った後、産地戦略推進室とJA 西条から「絹かわなす」の特徴や生産状況等についてレクチャーを受けた。
- 参加者らは、「栽培が難しいことや、食味が良いことなどがよくわかった」などと述べ、「絹かわなす」の食味や魅力について感銘を受けていた。



「絹かわなす」の収穫体験

■花木メラレウカの挿し木繁殖農家を育成中

- 産地戦略推進室は8月29日、西条市内の農家圃場で、移植適期（6月12日：挿し木）を迎えたメラレウカ「レッドジェム」と「レボリューションゴールド」の約200鉢の鉢上げを1戸に指導した。
- これは、管内で花木苗を供給できる体制を構築し、挿し木繁殖を行うことができる農家を育成するために実施している。
- 実施農家は初めての挿し木で、高温などの悪条件下により、今回の発根率がやや低い結果であったが、挿し木に適する枝の調整方法や水管理など手応えを掴んだことから、次回9月に挿し木を実施する。



生産者への鉢上げ指導

今治支局地域農業育成室

■甘平の裂果対策実証試験を実施

- 今治支局地域農業育成室は、甘平の裂果対策に向けた実証試験を実施中。
- マルドリ方式（マルチ及び点滴かん水）を用いて急激な土壌乾燥を防止し、果実肥大期（5月末～7月末）の液肥の葉面散布（1週間毎）により果実肥大を促進することで、裂果の抑制を図っている。
- 現在、裂果の発生は少ない状況であるが、定期的（2週間毎）に調査を行い、対策技術の効果を確認する。



葉面散布の様子

■農業女子がアシストスーツ体験と鳥獣害対策について学ぶ

- 今治支局地域農業育成室は8月21日、今治市上浦町支所にて女性経営参画支援講座を開催し、今治農業女子7人がアシストスーツを体験した。
- 当日は、アシストスーツを取扱っている株式会社ニッカリの担当者から、今までの開発の経緯や扱い方について説明があり、その後、メンバーがアシストスーツを装着し、15kg、20kgの荷物を持ち上げ、実際に機械がどのくらい補助してくれるのか体感した。
- 体験したメンバーからは、「実際に体験できてよかった」「アシストしてもらうような動作のコツをつかむのが難しい」などの感想があった。また、持ち上げ動作だけでなく、降ろす作業や水平作業についてもアシストしてほしいと開発業者へ提案していた。
- その後、伊方町で地域おこし協力隊として活躍し、昨年「えひめ地域鳥獣管理専門員」として県の認定を受けた大久保玲香氏を講師に招き、イノシシ被害に悩まされている地元集落で柑橘園地を守った活動事例を学んだ。



講座の様子

今治支局産地戦略推進室

■オリーブの挿し木試験結果が良好

- 産地戦略推進室は、今年度から管内で独自にオリーブの苗を安定的に確保する体制を構築するために、挿し木の育苗試験を実施。
- 既存のオリーブ園の4品種（ミッション、マンザニコ、ルッカ、ネバディロ・ブランコ）の枝3,000本を4月に育苗箱に挿し込み、8月まで経過を観察したところ、ルッカとネバディロ・ブランコにおいて高い活着率（7割）を確認することができ、挿し木育苗試験結果は良好。
- 今回、挿し木育苗として一定の成果が得られたことから、次の段階として、この挿し木を活用し、直接圃場への定植が可能となるポット育苗の実証へ進む予定。



挿し木育苗試験

中予地方局地域農業育成室

■伊予柑超省力化実証園でドローン防除と園内道設置を完了！

- 地域農業育成室は8月22日、伊予柑の超省力化技術実証の一環として、松山市福角町のモデル園で4回目のドローンによる黒点病防除を行い、生産者等10名がその様子を確認。
- ドローン防除は、6月13日、7月9日、7月25日にも実施しており、10aあたりの防除時間は、圃場位置情報の取得時間も含めて、15～30分程度。横移動（前後左右）はオート、縦移動（上下）はセミオート（オペレーターによる補正あり）で実施した。
- 今回の実証により、ドローン防除は散布時間が短く、微細な薬液が付着するため乾くのが速いことから、雨の合間の防除が可能というメリットがある反面、葉裏への付着量が少なく、殺虫・殺ダニ剤への利用には課題が残った。
- モデル園では、7月に園内道（28.8m）の設置も完了しており、園主からは作業性が良くなったとの評価を得ている。
- 今後は、黒点病発生調査による防除効果を確認するとともに、園内道の設置効果等についてもデータを収集し、超省力化技術の確立・普及を進める。



ドローン防除による薬液付着状況



モデル園に設置した園内道

■樹園地整備で次世代につながる営農方針を協議

- 農地中間管理機構関連農地整備事業による樹園地整備が予定されている、中予管内6地区（下難波、浅海原、由良など）の内、樹園地で県下初の事例となる下難波地区では、令和3年春に一部で植栽できる見込み。
- 地域農業育成室は8月6日、JAえひめ中央及び松山市、中予地方局農村整備課等と、下難波地区を中心とした整備状況や今後の営農方針について協議。
- 令和3年度以降、工事完了園地から随時17haの施設整備が見込まれていることから、国・県・市・基金事業をフル活用する必要があることなどを確認した。
- また、高浜復旧モデル地区についても、8月9日にワーキングチーム会を開催し、営農方針について検討。来春の一部植栽に向けて、早期成園化を目指したマルドリ施設の導入や土づくりを推進することを意識統一した。
- 今後、両整備地区について、要件を踏まえた活用事業の整理や生産者との話し合いを進め、関係機関が一丸となって、次世代につながる営農を支援する。



下難波地区の完成イメージ

■シキミの出荷調製作業に福祉の力を

- 地域農業育成室は8月8日、JAえひめ中央三内支所において、しきみ生産部会と地元A型就労支援施設との、シキミ出荷調製作業に関するマッチングを行った。
- 今回の事例は、盆前需要期での出荷量を確保したい生産者と施設外就労に取り組む福祉施設

の要望を受け、JA と地域農業育成室が仲介して実現。

- 当日は、施設利用者3名が生産者や施設支援員の指導を受けながら、下葉の処理や実の除去作業を実施し、約4時間で100kg程度のシキミを整品に仕上げた。
- 生産者は、「1回に出荷する1.5倍のシキミの下処理ができた」と施設利用者の作業を評価した。
- 同室では、今回の事例結果を検証しシキミ生産者に広く紹介するとともに、希望農家にはJAが窓口となり、随時対応できるよう支援する。



生産者からの指導を受ながら作業のコツを掴む施設利用者

伊予農業指導班

■中山栗“産地力向上”に向けた活動が順調

- 伊予農業指導班は8月6日、中山栗の産地力向上に向け、第2回プロジェクト会議を開催し、収穫ネットのメリット、設置方法や啓発パンフレットの作成等の検討を行い、併せて現地において、カットバック剪定と間伐を実施したモデル園地を見学し、現在の樹勢や受光環境、着実状況を確認した。
- 8月14日には、モデル園2か所に収穫ネットを設置し、慣行の収穫とネット収穫での労働負担や収穫果実の品質の違いについて検証することとした。
- また、8月20日に開催された「JA えひめ中央 栗出荷販売会」では、12モデル園地での実証内容と、平均収量及び園地の配置図等を掲載した「中山栗ブランドの発展に向けて！反収200kg」の目標を掲げた啓発パンフレットを配布・説明し、産地力向上に向けた生産者の機運を高めた。
- 今後、モデル園地の収量・品質調査を行い、実証効果を確認するとともに、各種会議等で啓発パンフレットを配布し、農家の意識改革を進める。



モデル園に設置した収穫ネット



普及指導員による実証効果の説明
(出荷販売会)

■台湾・裕毛屋で温室みかんのプロモーション販売を実施！

- 伊予農業指導班はブランド戦略課と連携し、8月23～25日、海外への販路拡大を目的として、台湾・裕毛屋で開催された「愛媛フェア」に参加し、JA えひめ中央の温室みかんを中心とした県産品のプロモーション販売を行った。
- 台風接近の影響で販売が懸念されたものの、3日間の温室みかんの販売額は19.3万円（前年比90%）で、贈答用・家庭用ともに好評であった。
- 台湾の消費者は、温室みかんの酸味に敏感な反応は示すものの、味全体や外観に対する評価は高く、試食なしで購入する消費者も見られるなど認知度は高まりつつあ



台湾・裕毛屋で県産品
(温室みかん) をプロモーション
販売する普及指導員

り、今後も継続して販売することが重要である。

- 指導班では、今回のプロモーション販売を通して得た情報を、生産現場等にフィードバックし、来年度以降も海外輸出に向けた生産指導を行う。

久万高原農業指導班

■薬用作物の現地普及に向けた打ち合わせを実施

- 久万高原農業指導班は8月23日、薬用作物の現地栽培について久万高原農業公社と協議を行い、農業公園アグリピアでシャクヤク（生薬原料、栽培期間5年）とシラン（化粧品原料、栽培期間2～3年）の2品目を計70㎡栽培することを申し合わせた。
- これは、農業指導班実証圃場内で、奈良県の生薬問屋と連携して栽培している薬用作物の現地普及を図ったもの。
- 今後、指導班は年度内の定植に向け、種苗の供給方法等について生薬問屋と協議を進める。



シランの実証栽培（指導班実証圃場）

■農福連携で施設利用者がピーマンの収穫作業を体験

- 久万高原農業指導班は8月27日、実証圃場と農家圃場において、福祉施設と連携したピーマン収穫作業の体験と実証を行った。
- これは、収穫作業の負担を軽減し、経営面積の拡大につなげることを目的として実施したもので、当日は、松山市の福祉事業者(株)ラコッタ及び関係機関の担当者11名が参加。
- 収穫は、施設利用者2名と収穫未経験の健常者1名に実際に体験してもらい、今後の参考とするため、収穫量や作業精度についてデータを収集した。
- 施設支援員からは、「利用者の個人差もあるが、果実の大きさを見極める難易度は高くなく、経験を重ねることでスピードアップが可能」との意見があった。
- 農業指導班では、実証結果を部会員に周知するとともに、農福連携による収穫労力の軽減について啓発を図る。



生産者から収穫果の説明を受ける施設利用者

中予地方局産地戦略推進室

■東温パクチーのプロモーション活動をスタート

- 産地戦略推進室は、「東温パクチー産地づくり事業」において、東温市産パクチーのPRに向けたプロモーション活動を民間と協力して開始。
- 第1弾として8月24日、東温市において、イタリアン料理店「OTTO」（オットー）の敷地で開催された食と音楽のイベント「東音夜市」（東温食材研究会主催）に出展し、東温市産パクチーのPR、関連イベントの開催情報の提供を行うとともに、パクチーの認知度や購買意欲、消費者の嗜好に関するアンケート調査を実施。
- 調査結果は、料理レシピの作成や今後の開催イベント（ワークショップ、パクチーフェア等）

におけるPR活動に活用するとともに、販路拡大等にも生かす計画。

- 第2弾として8月26日に、愛媛調理製菓専門学校とのコラボによるパクチーを使った家庭料理レシピの作成を進めるため、専門学校生等4名が参加して現地見学ツアーを開催。
- 参加者は、パクチー栽培の取組みやセールスポイントなど、生産者から直接、生の情報を聞いて、レシピづくりのイメージを膨らませていた。
- なお、専門学校生が考案する家庭料理レシピは、11月頃に披露する予定。



「東音夜市」でアンケート調査を実施



パクチーを手に取り、レシピをイメージする専門学校生

南予地方局地域農業育成室

■災害復旧のため石積み教室で基礎技術を習得

- 地域農業育成室は8月7日と8日の2日間、農業改良普及事業推進協議会の協力を得て、平成30年7月豪雨により被災し崩落した石積みを修復する「石積み教室」を開催した。
- 現在の石垣は過去に積まれたものばかりで、石積みの技術は、現在の耕作農家に技術が継承されていないため、京都府より講師を招き、石積みの基本技術の説明を受け、石を積み上げていった。
- 参加者からは、「自己流で石積みをしてきたが、再度崩れた経験がある。今回の石積み教室で得た情報や技術を基に、再度石積みに挑戦してみたい」といった意見があった。
- 地域農業育成室では、今後も被災地の復旧・復興につながる技術導入を行う。



崩壊した石垣



修復完了

■玉津地区農地再編復旧に係る農業者の代表が選出され事業推進に一步踏み出す

- 平成30年7月豪雨によって、大規模災害を受けた宇和島市玉津地区における園地の再編復旧については、地元合意が整い再編復旧の事業化に向けた計画作成に着手。
- 8月26日に地元代表者会が開催され、法花津・白浦の各工区の代表・副代表のほか、工事・営農・換地の各部会において部会長が選出され、事業の推進体制が整った。
- 地域農業育成室では、今後、営農部会で進める営農計画の作成支援の中で、基盤整備後の作付品種や面積等について協議するとともに、収益性向上のために紅プリンセスの産地化に取り組む。



法花津工区基盤整備のイメージ図

■南予柑橘復興にむけたスピード感を持った生業支援へ

- 地域農業育成室では、吉田町玉津地区において大規模再編復旧に向けた地元合意が整うなど、ハード面での復興が加速しつつある中、今後は、生業支援等についてスピード感を持った取組みが重要であることから、新たに南予地域柑橘農業復興対策チームの下に、JAえひめ南、宇和島市、地方局の実務担当者で組織する「営農支援班」を設置。
- 8月28日、「第1回営農支援班」を開催し、今後の生業支援として、①再編復旧及び未収益対策、②労働力補完対策、③柑橘復興推進事業の推進、④JA出資型法人の設立の4項目について、現状及び対応・課題について共通認識を図るとともに、特に、スピード感を持った対応が必要な、「代替園地の確保」や「収穫等の作業を補完する労働力確保対策」について、JAえひめ南、宇和島市、地方局における具体的な役割分担やスケジュール管理を確認した（次回開催は9月上旬を予定）。
- 地域農業育成室では、産業振興課内に「産業振興課営農支援チーム」を設置し、職員一体となって各対策の進捗管理を確認し、復興対策を着実に推進する。

鬼北農業指導班

■栗の大規模高収益栽培モデル園の造成開始

- 鬼北農業指導班は8月13日から22日、「普及組織先導型革新的技術導入事業」を活用した伐採林地を利用した栗の大規模高収益技術の実証モデル園において、苗木の定植や作業道の位置等を決定するための測量作業等を実施。
- 伐採途中の山林において、業者がオートレベル等を利用し、園内の各所の高低差や、35カ所の基準点を測量するとともに、若手普及員が測量方法や園地造成までの手順等を習得。
- 指導班は、12月までに測量した基準点を基に、新たに1.5haの園地が造成・整備される予定で、その後の自動灌水システム等の装備により、反当り500kgを目指した高収益栽培技術の実証が開始される。



若手普及指導職員によるオートレベルで圃場の高低差の測量



園地造成のための伐採作業

愛南農業指導班

■秋冬どりブロッコリーの栽培指導が本格化

- 愛南農業指導班は、愛南町で高単価での販売が期待できる10月中旬収穫を目指したブロッコリーの定植が、8月10日から開始されたことを受け、この時期の定植が降雨や高温等の厳しい気象条件下での栽培となる作型であることから、正品率の向上に向け、ポイントとなる排水対策を個別に巡回し指導。
- 今後は、主力の作型である9月定植の安定生産に向けて、



ブロッコリーが定植された圃場

湿害対策に効果の期待できる酸素供給資材の試験や根こぶ病耐病性品種選定の実証圃設置などを計画している。

■河内晩柑の長期貯蔵による夏季販売に取り組む

- 愛南農業指導班は、河内晩柑の夏季販売に向け局予算「夏季販売仕向けかんきつ品質安定化事業」を活用した長期貯蔵に取り組んだ結果、7月に約5.9tを販売した。
- 今年は、低温貯蔵とマイナスイオン発生機を組み合わせた貯蔵方法に取り組み、通常貯蔵(低温のみ)より約13%程度腐敗果の発生を抑えることができた。
- また、販売面では、市場からは木成り栽培より外観面で評価が高いとの声があり、地元直売所での販売においても高単価で販売することができた。
- 今後は、販売結果がまとまる9月に経済性を検証し、事業効果や次年度の対応について検討する。

南予地方局産地戦略推進室

■ゆず産地の新たな取り組み

- 産地戦略推進室は8月9日、鬼北地域のゆず産地振興策を検討するため、JA えひめ南鬼北広見支所(鬼北町)において、鬼北ゆず部会、松野町、鬼北町、JA えひめ南、産業振興課で構成する「第1回ゆず産地活性化検討会」を開催し、青ゆず(夏に収穫した若い果実で、キリッとしたさわやかな酸味と香りが特徴)の販売や加工品開発について意見交換を行った。
- 鬼北地域では、冬に収穫した果実はJAで搾汁し、ゆず酢として出荷されており、夏の青ゆずとしての利用はほとんどない。
- 近年、国内外で青ゆずの需要が高まっており、有機栽培に準じた生産を行う鬼北産ゆずのメリットを活用し、青ゆずの販売やゆず胡椒等の加工品開発に取り組むことを確認した。
- また、市販のゆず胡椒を試食しながら意見交換し、参加者から「8月下旬頃は稲刈り時期と重なるため取組みの拡大は難しい」、「ゆず胡椒の取組みは面白い」等の意見があり、最適な収穫時期や出荷方法等を検討しながら進めていくこととなった。
- 今年度は、青ゆず100kgを宇和島市内の加工業者に販売する予定で、加工業者からの意見要望を踏まえて、次年度以降の取組みに生かすこととしている。



ゆず産地活性化検討会

八幡浜支局地域農業育成室

■石積み講習会(第2回シトラス講座)開催

- 地域農業育成室は8月6～7日、第2回シトラス講座として、崩れた石垣の修復方法を学ぶ石積み講習会を開催。
- 講師は全国で石積みの技術を伝えている『石積み学校』の金子玲大氏と伊藤友宏氏。
- 講習会には、青年農業者や新規就農者ら延べ38人が参加。昨年の7月豪雨災害で崩落した石垣を修復しながら石積みの技術を学んだ。
- 今後も定期的に石積み講習会を開催し、気象災害に強い基盤づくりや柑橘産地の景観維持を支援する。



石垣の修復状況



積みあがった石垣

■スマート農業加速化実証 気象ロボットの設置を終え、園地管理の「見える化」を検討

○愛媛県柑橘スマート農業実証コンソーシアム(県、JA、ICTベンダー)は、スマート農業加速化実証プロジェクトの一環として、圃場の気温や土壌水分等の環境データを、スマートフォンやパソコンなどからモニタリングできる気象ロボットの設置を、マルドリ温州みかん5園地、施設甘平3園地で実施。

○8月23日、圃場環境や栽培管理の「見える化」について検討会を開催し、実証農家や関係機関等関係者ら30人が出席。

○気象ロボットのモニタリングシステムを用いれば、気象環境のほかに管理作業等の情報もクラウド上に集積することが可能であることから、圃場環境に応じた栽培管理の最適化を図っていくため、システムの使用や活用方法について検討を実施した。



みかん圃場に設置した気象ロボット

八幡浜支局産地戦略推進室

■フィンガーライム産地化に向けて

○産地戦略推進室は8月27日、フィンガーライム産地化に向け、生産者や関係機関と連携して新規栽培候補者向けの説明会を開催した。

○様々な販売拡大活動を報告し、国産の人气が高く今後も需要拡大が見込まれることを伝えたほか、周年安定栽培に必要な施設の導入試算、補助事業活用等、新たに栽培を始めるにあたっての検討材料を提供した。

○参加者は、園地視察時も栽培や販売の現況について積極的に意見交換するなど、「前向きに栽培を検討したい」との声が多かった。

○当室は、引き続き関係者と連携して、「“国産”“フレッシュ”フィンガーライム=愛媛」のキャッチフレーズで産地化を目指す。



栽培から販売にかかる情報を栽培候補者に提供した

■香港輸出関係業者と今年産柿の輸出協議

○輸出事業者畢^{ひつ}氏(マレーシア・KHAISHEN社の日本法人・グローウェルジャパン株式会社の取締役)と香港の仲卸兼小売業者が8月27日、内子町の柿産地を訪問し、今年産の香港輸出について産地代表者らと協議した。

○同氏の産地訪問は昨年9月から4度目と関心が特に高く、昨年の香港初輸出で品質・客の評判とも秀でていたことから当地の柿の輸出拡大を強く望んでいる。

○産地側からは、生育状況と可能な対応等を提示して、今年の輸出実現に向け具体的な日程、

品種、数量を協議した(大洲農業指導班と当室は、冷蔵貯蔵技術や香港輸出の支援を継続中)。
○また、業者は八幡浜市内のかんきつにも関心が高く、この後 JA にしゅうわを訪れ協議を始め
るなど、管内果実の香港輸出に広がりを見せている。



輸出継続、関係強化に向けた前向きな検討



園地で生育状況を視察し、行き届いた
栽培管理への関心・評価も高かった

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543